

清流

豊かな発想

早いもので、もう3月中旬となり、今年度も残すところあと一週間ほどとなってしまいました。学校では、卒業式の練習とともに、最後のまとめをしている時期ですが、同時に次年度の教育をどのように進めていくのかを計画する時期でもあります。甲佐町では町全体として、ICT活用や小学校英語教育、道徳教育、熊本版コミュニティ・スクール、小中一貫教育と様々な特色ある教育を進めています。甲佐小で来年度それらを、どのように推進していくのか、いろいろと考えているところなのです。甲佐小の校長を生かしつつ少しでも前進していきたいところですが、なかなかいいアイデアが浮かんできません。自分の発想の中にどうして「限界」を作ってしまったのを感じるのです。「この方法は、あれがあるからできない。」「こちらの方法は、あのことが壁となって進まないだろう。」こんな感じです。つくづく、自分の発想が貧困であることにがっかりします。

発想という点も含め、最近の企業はどのような人材を必要としているのでしょうか。どうやら、単なる学力だけではなく、その人の人間性やコミュニケーション力とともに、豊かな感性や発想をもった人が重要視されているようです。ある講演会で、入社試験の面接時に次のような質問があったという話を聞きました。

- ・何歳の時の自分が好きですか。
- ・秋の訪れを何で知りましたか。
- ・自分のふるさとを色で表すと何色ですか。
- ・ミロのビーナスに手があったら何を持たせますか。
- ・無人島で一ヶ月暮らす時、一つ持って行くとしたら何を持って行きますか。

読まれてお分かりいただけるように、それぞれの問いに明確な正答はないのです。そして、答えたことに関して続きの質問が用意されていて、その人がどんな感性や発想をもっているのかを問うているのです。講演では、どんな答えが面接官の心に残ったかという一例も話されました。それは、最後の質問に対する「家族のアルバム」という答えだったそうです。

また、発想力を試す次のような問題も紹介されました。

あなたは、2人乗りのスポーツカーで道を走っています。すると、雨が降り出しました。降り出した雨の中、道端のバス停で雨にぬれながら3人の人々がバスを待っていました。その3人は次のような人々です。一人は具合が悪そうなおばあさん、もう一人は、大切な会社の顧客、最後の一人は、日頃から思いを寄せていた女性。車の中には、かさが1本だけあります。あなたならどうしますか。

この問題には、おもしろい発想力があればたどり着く、素敵な解決策があるそうです。それは、大切な顧客に車を貸し目的地までぬれずに行ってもらおう。ただし、具合が悪そうなおばあさんがいるので、その人を一緒に乗せて、目的地か病院まで送ってもらおうようお願いする。そして、自分は思いを寄せていた女性と相合傘でバスを待つ、という方法だそうです。

もちろん、この問題は現実にこのような場面の解決策を求めているのではなく、発想の豊かさを問うているのです。豊かな発想は、企業にとって様々な可能性をもたらしてくれるのでしょう。

現在の教育では、単に解決方法を教えてその方法を繰り返し練習するという手法はとられていません。解決方法を考えること自体に重点が置かれ、その解決方法も一つではなく多様な方法や考えを引き出すことが重視されています。これらも発想の豊かさにつながるものだと思います。

甲佐小の子どもたちが、もっともっと豊かな発想をもった子どもたちに育つよう努力しなければと思うとともに、来年度の甲佐小、甲佐町の教育が少しでも充実するよう、「限界」に縛られずにもう少し考えてみたいと思います。